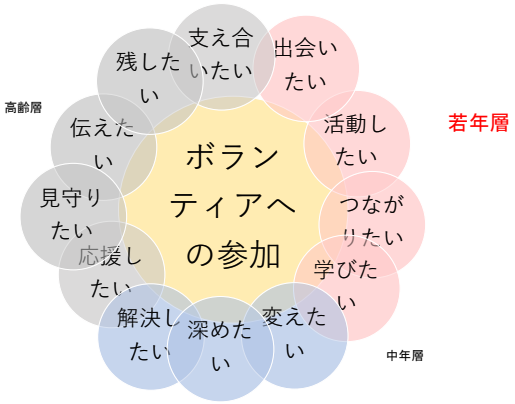
2023 年 2 月 10 日（金）13 時 30 分～16 時 15 分
令和 4 年度 市町村ボランティアリーダー学習会（北海道社会福祉協議会 ボランティア部会）
テーマ：：『若手・働き世代のボランティア参加・育成を考える』

若手・働き世代のボランティア参加・育成

＜学びの視点＞
■若手・働き世代の活動ニーズ：生き方や働き方の変化を知る
■若手（主に大学生）が多様なボランティア活動を創り出す
■ボランティア参加の捉え方：潜在的ボランティアへの着目する
■ボランティア育成の手法や段階：クドバス評価の活用する
■パラレル・キャリアの時代へ：ボランティア参加のチャンスを増やす

■若手・働き世代の活動ニーズ：生き方や働き方の変化を知る

〇世代による様々な「思い」や「ニーズ」を捉える

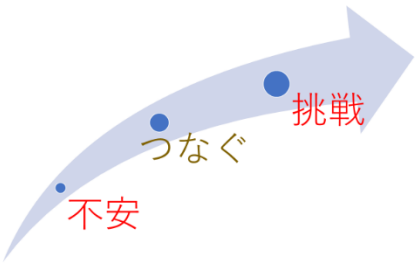


注：齊藤（2020）

＜TRY＞
ボランティアに参加するとき、何を期待したか？
年代別、属性別で異なる。

〇若手・働き世代の生き方や働き方：漠然とした不安
　未婚化・晩婚化・少子化でライフイベントの変化（仕事・結婚・出産・子育て・介護等）
　　生涯未婚率の現状（2020）…男性 28.3%、女性 17.8%
　変化を求めて、新しいことに挑戦したい、学び直し（リスキリング社会）
　働き世代→就職氷河期世代 1992-2004 年　＜36 歳～51 歳＞

〇初めの一歩は誰でも不安：誰がどう後押しするのか？



＜TRY＞
初めてボランティア活動をやった自分を思い返す。

2023 年 2 月 10 日（金）13 時 30 分～16 時 15 分
令和 4 年度 市町村ボランティアリーダー学習会（北海道社会福祉協議会 ボランティア部会）
テーマ：：『若手・働き世代のボランティア参加・育成を考える』

■若年層（主に大学生）が多様なボランティア活動を創り出す

○様々な活動の事例紹介（大学と地域との連携）：地域活動のアイディアを創出する

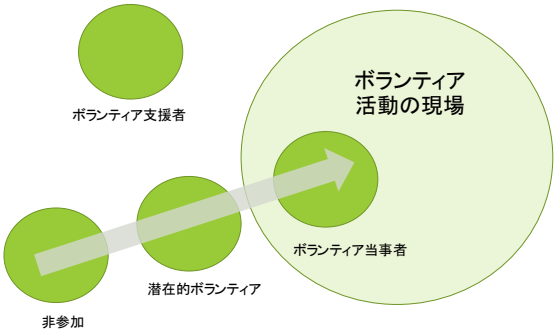
アートパークプロジェクト（課題：子どもが公園で遊ばない、子ども団体の連携）2007～
ジュニア夢カレッジ：プロから学ぶお仕事体験（課題：子ども・若者の職業体験）2013～
クリスマス KIDS 運動会・ウィンターKIDS 運動会（課題：子どもの運動不足）2016～
かながわユースフォーラム（課題：若手の学生主体となる活動創出）2020～
https://www.kanagawa-youth2020.net/
六角橋商店街にポニーがやってくる（連携：六角橋商店街）
町内会でヒューマンライブラリー（連携：斎藤分町内会）
子どもアドベンチャーカレッジ（連携：横浜市教育委員会）など

＜TRY＞
ワクワクするイメージづくり
「おもしろそう」「やりたい」声

○ポイント（大人と若手とのかかわり方）

若者・子ども参画を導入していること（主体は若手、自己決定は若手が行う）
企画・運営に関与すること（×大人がやってほしいこと、○若年層がやりたいこと）
活動にあたる伴走をすること（声掛け、後押し、リーダーの発掘、技術・能力を引き出す）
活動後のイメージがみえること（未来がみえる、目標がある、自己向上の変化がある）
活動に終わりがあること（プロジェクトベースで活動に目標とゴールを設定する）

■ボランティア参加の捉え方：潜在的ボランティアへの着目する



＜TRY＞
「潜在的ボランティア」に注目
関心や意欲はあるが、実際には行動していない層。
「やってみたいけれど…」
「やってもいいけれど…」
「昔はやっていたけれど…」

○ボランティア活動層（社会生活基本調査によるボランティア行動者率）

2016 年　26.0%（男性 25.0%、女性 26.9%）
2021 年　18.1%（男性 18.5%、女性 17.8%）

○社会貢献意識（内閣府 2021「社会意識に関する世論調査」）

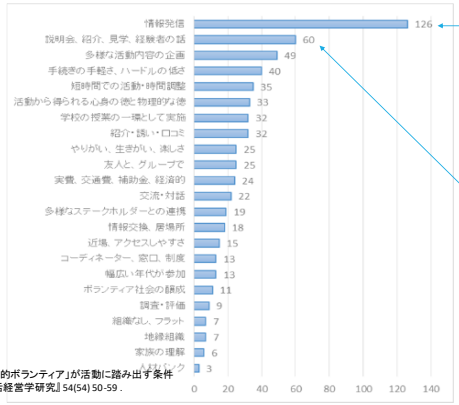
日頃、社会の一員として、何か社会のために役立ちたいと思っているか？
「思っている」と答えた者の割合が 63.9%（男性 66.2%＞女性 61.7%）

2023 年 2 月 10 日（金）13 時 30 分～16 時 15 分
令和 4 年度 市町村ボランティアリーダー学習会（北海道社会福祉協議会 ボランティア部会）
テーマ：：『若手・働き世代のボランティア参加・育成を考える』

■ボランティア育成の手法や段階：クドバス評価の活用する

○潜在的ボランティアを活動に誘う戦略

「潜在的ボランティア」を活動に誘う条件設定



624点
有効データ
134人
平均
3.9点

23項目

斉藤ゆか（2019）「潜在的ボランティア」が活動に踏み出す条件設定と環境づくり『生活経営学研究』54(54) 50-59 .

△掲示
△回覧板
△新聞・広告

○ホームページ

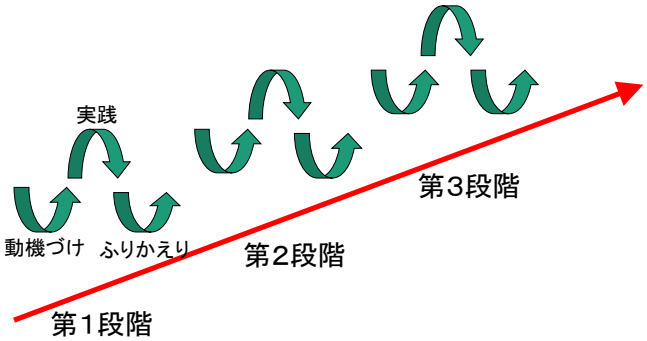
×フェースブック
○インスタグラム
○ツイッター
○ユーチューブ
○ティップトップ

＜TRY＞
若手（大学生等）や働き手がみている媒体を聴いてみる。

発信方法は、若手が先生！

○活動を段階的に行う

「アドベンチャー・ウェーブ」
「参画」レベル別の組み合わせ



＜TRY＞
「参加」から「参画」へ、
どう誘導していくか？

参加は、お祭参加
参画は、企画や運営へ

活動への参加・参画への階層をつくる
～社会参画力を高める～

1. 知る機会（情報を届ける。学校や施設等と連携。SNS等の発信）
2. 学ぶ機会・体験の機会（1回3時間、手軽な交流型プログラム）
3. プロジェクトベース（終わりのある活動、課題解決・探求型プログラム化）
4. 支える側、お兄さん・お姉さん的存在のサポーターとなる。
5. 持続的・継続的な活動、卒業か定着か。一回出て戻る可能性。

経験
成長

自信
（大丈夫）

＜TRY＞
ボランティアを通じて、どのような資質や能力を培えるか？考えてみよう。

「成長実感」するために、
能力評価軸を作成する。

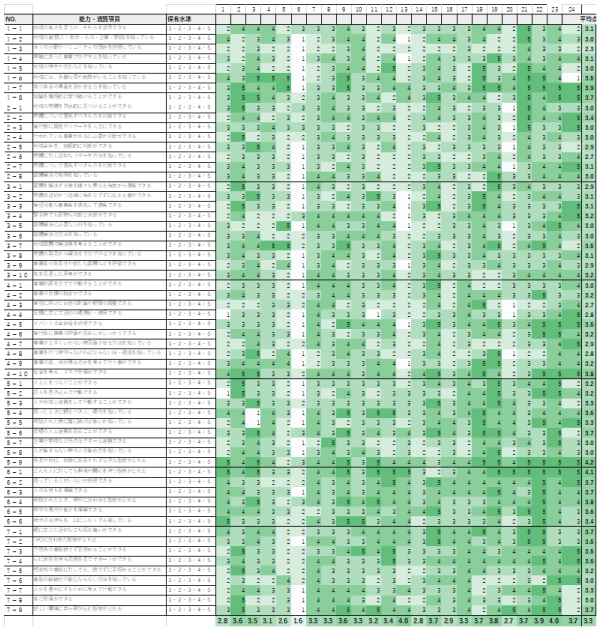
2023 年 2 月 10 日（金）13 時 30 分～16 時 15 分
令和 4 年度 市町村ボランティアリーダー学習会（北海道社会福祉協議会 ボランティア部会）
テーマ：：『若手・働き世代のボランティア参加・育成を考える』

○国際的に求められているコンピテンシー

「キーコンピデンシー」DeSeCoプロジェクトの概念枠組み

キー・コンピテシーのカテゴリー				コンピテンシーの内容
1	周囲の環境と対話するためのツールを相互作用的に活用する能力	Using Tools Interactively	A	言語、記号、テキストを相互作用に用いる
			B	知識や情報を相互作用に用いる
			C	技術を相互作用に用いる
2	異質なグループで協力し合う能力	Interacting in Heterogeneous Groups	A	他者との関係をよくする
			B	協力する、チームで働く
			C	軋轢を制御し、解決する
3	自律的に行動する能力	Acting Autonomously	A	大きな実態の中で活動する
			B	ライフプランやパーソナルプロジェクトを設計し、実行する
			C	権利や利益、限界や要求を守り、主張する

出所：OECD(2005) THE DEFINITION AND SELECTION OF KEY COMPETENCIES(Executive Summary)より,筆者作成.



○クドバスによるボランティアに必要な能力・資質（齊藤 2006 年）

① 他者受容能力、②感謝表明・信頼関係・時間管理能力、③人間関係構築能力、
④ 自己形成能力、⑤コミュニケーション能力、⑥判断能力、⑦他者関係構築能力、
⑧ リーダーシップ能力、⑨自己環境拡大能力、⑩地域理解能力　など

■パラレル・キャリアの時代へ：ボランティア参加のチャンスを増やす

○体験型のボランティアを増やすために
「声掛け」と「後押し」の充実
新しい活動体験の機会づくりから「自信」へ

○弱さを認め合える、開放性・親和性を味わう、孤独・ストレスを解消するために
第二の居場所づくり、新しい人間の組み直し、自己肯定感・自己有用感

○パラレル・キャリアをつくるために
パラレル・キャリアとは、「本業を持ちながら、第二のキャリアを築くこと」。
第二のキャリアとして、非営利の活動（＝ボランティア活動）でもよい？

○リスキリング（＝学び直し）に貢献するために
営利（企業等）でなく、非営利の活動を通じてキャリアを磨き直す。ダイバシティを理解

＜講師担当＞　齊藤ゆか（神奈川大学人間科学部・教授）
専門：ボランティア活動論、ＮＰＯ，生活経営学
研究：定年退職後のプロダクティヴ・エイジングに関する研究
潜在的ボランティア希望者を活動に導くための条件設置・環境づくり
主な著書：『ボランタリー活動とプロダクティヴ・エイジング』（ミネルヴァ書房・2006）、
『創年のススメ』（ぎょうせい・2008）、『ボランティア評価学』（ミネルヴァ書房・2022）